

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本 I		授業の種類 (講義)		授業担当者 佐藤 和子
授業の回数 30 コマ	時間数（単位数） 60 時間	配当学年・時期 1 年次通年	講師の実務経験 有 ・ 無	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>『尊厳の保持』『自立支援』という新しい介護の考え方を理解する</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護福祉の歴史や基本となる理念を学び、利用者の自立に向けた介護福祉のあり方、考え方を理解する。</li> <li>・ 介護福祉士の役割や機能を理解する。</li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護理念・倫理綱領・利用者理解を通し、介護福祉士のあるべき姿や求められる介護福祉士像を理解できる。</li> </ul>				
<p>[授業の日程と各界のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護とは、介護の成り立ち、社会政策と各種法整備①</li> <li>2 社会政策と各種法整備② 介護問題、老人福祉法制定と背景</li> <li>3 介護の概念の変遷① 1970 年代・1980 年代</li> <li>4 介護の概念の変遷② 1990 年代・2000 年以降</li> <li>5 介護の概念の概念③ 2000 年以降 介護保険 定義と業の変遷</li> <li>6 介護福祉の基本理念① 尊厳を支える介護</li> <li>7 介護福祉の基本理念② 自立を支える介護 演習</li> <li>8 介護福祉士の役割と機能 介護福祉士の活動の場と役割① 地域包括</li> <li>9 介護福祉士の活動の場と役割② 介護予防 医療的ケア</li> <li>10 介護福祉士の活動の場と役割③ 様々な活動の場 災害時の支援</li> <li>11 社会福祉士及び介護福祉士法① 制定・法の概要・改正</li> <li>12 社会福祉士及び介護福祉士法②</li> <li>13 介護福祉士養成カリキュラムの変遷 求められる介護福祉士像</li> <li>14 介護福祉士を支える団体 前期まとめ</li> <li>15 前期定期試験 解説</li> <li>16 介護福祉士の倫理 介護実践における倫理 倫理的判断</li> <li>17 さまざまなケースの倫理的判断と介護福祉士の対応</li> <li>18 日本介護福祉士会の倫理綱領①</li> <li>19 日本介護福祉士会の倫理綱領② 演習</li> <li>20 自立に向けた介護福祉士のあり方① 自立支援の考え方 自己決定</li> <li>21 自立に向けた介護福祉士のあり方② ICF の考え方</li> <li>22 自立に向けた介護福祉士のあり方③ ICF の考え方 演習</li> <li>23 自立支援とリハビリテーション① リハビリテーションとは</li> </ol>				

<p>24 自立支援とリハビリテーション② リハビリテーションの実際</p> <p>25 自立支援とリハビリテーション③ 障害の理解と評価</p> <p>26 自立支援と予防介護① 概要 目的と考え方 介護予防事業</p> <p>27 自立支援と予防介護② 地域包括ケアシステムと予防介護</p> <p>28 自立支援と予防介護③ 高齢者の特徴と予防介護</p> <p>29 後期のまとめ</p> <p>30 定期試験 解説</p>	
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>中央法規出版 介護の基本 I</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>小テスト、授業態度</p> <p>定期試験</p> <p>評価基準は評価記入用紙による</p>